

海外派遣留学プログラム報告書

(報告期間：2020/1/06 ～2020/5/22)

新型コロナウイルスの影響で現地での留学生活は中断となりましたが、去年の9月から約7か月間のフィンランド生活と、帰国してからの約2か月間のオンライン授業が終了しました。急遽帰国が決定し、予定よりも短い留学生活でしたが、貴重な経験ができたことや、実際に留学をしてみて新しく学べたことは多かったと思います。最後の報告書では、後期に入ってから帰国するまでの留学の様子を報告したいと思います。

1、勉学の状況

後期は、5つの授業を履修しました。その中からいくつか紹介します。

・ Current trends in counselling and guidance

この授業では、カウンセリング（主にキャリアカウンセリング）の現在の傾向や実践を学べる授業でした。生徒は10人ほどで、毎回の授業で、カウンセリングに関する授業と実践型のカウンセリングがグループで行われました。最後の授業では、自分のこれまでのキャリア選択についてのプレゼンテーションをする予定でしたが、急遽帰国になったため、自分のパワーポイントに音声を加えて提出して終わりました。自分の全く知らない領域でしたので、事前に授業内容を予習しておかないと、授業についていくのに苦労しました。しかし、先生が生徒一人一人に話しかけてくれたので、わからない部分は再度聞くことができました。

・ Cultural studies perspectives on Finnish culture

この授業では、フィンランドの文化を様々な分野から（民俗学、歴史、音楽など）学びました。丁度この授業が始まる頃に帰国したため、全ての講義はオンラインで受けました。授業のアーカイブが残るので、参加できなかった講義は後に自分で見ることができました。各回で出された課題と、全ての授業を通して学んだことをまとめた Learning Diary と、Essay で、成績が付きしました。

・ Educational Psychology

この授業では、教育心理学を学びました。講義は一回しかなく、その講義で教育心理学の基礎を学び、後は、自分で進める課題を提出する形の授業でした。フィンランドの小学校に訪問して、教育心理学の理論がどのように教育環境に組み込まれているのかを見る予定もあったのですが、新型コロナウイルスの影響で中止になりました。

2、生活の状況

○住居について

長くお世話になった部屋とも急遽お別れすることになりました。同居人が下の階に引っ越したので、後期が始まってからは、大きい部屋で一人暮らし状態でした。森に囲まれている場所で結構気に入っていたので、部屋を出ていくときは少し寂しく感じました。即日で退去が決まったため、退去の手続きはすべてメールで済ませました。家の鍵はオフィスの郵便受けに投函しました。共同スペースが汚れていたなので、部屋のクリーニング代を請求（約 2000 円）されました。

○通学について

以前と変わらず、バスで通学していました。雪は少しずつ解けてきていましたが、自転車で通学するには危ないと感じていたので、自転車は借りていませんでした。自転車で通学している人も多かったです。

○気候について

あまり気温の変動は感じませんでした。5°C～-8°Cを行ったり来たりしていました。例年のように-20°C～30°Cまで落ち込むことはなかったです。夜は長くなりましたが、晴れの日は少なく、主に曇っていました。たまに晴れた日は軽く感動を覚え、遠回りして学校に向かったりしていました。

○食事について

気づけば、自炊するときは、パスタか親子丼の二択になっていました。学食に行くこともありましたが、講義が少なかつたため、主に自宅でご飯を食べていました。

○大学生活について

後期が始まった頃は、新入生歓迎イベントがあるので、前期よりも積極的に参加しました。いろんな国の人と喋ることができたので、参加してよかったです。講義がある授業が一つしかなかったなので、講義がある日は学校に行き、それ以外は家で課題をしていました。たまに図書館でも勉強していました。授業以外で友達に会う機会はほとんどなかったです。学内のスポーツアクティビティや、日曜日に地元のサッカークラブでサッカーすることで体を動かしていました。前期に行っていた日本語教室にもたまにサポーターとして参加していました。また、後期からスペイン語を習おうと思い、学生が運営するスペイン語教室にも通いました。結果的に2回しか参加できませんでしたが、スペイン語の基礎的な部分は学べました。